

部 会 報 告

第 17 回 機電技術者意見交換会報告

建設業部会 機電技術者交流企画 WG

1. はじめに

当協会の業種別部会のひとつである建設業部会では、52 の会社や団体が所属して会員相互の共通課題をテーマに取り上げ活動している。

時代の要求や業界の状況を反映して様々な事業活動が実施されてきたが、特に建設の生産性向上と品質の確保および環境の保全といった業界普遍のテーマに取り組むための『人づくり』、『場づくり』については、当部会の大きな柱として捉えている。

近年、情報化施工に伴い建設機械の自動化、ICT 化などの分野に機電技術者の必要性が増している。機電技術者は会社の中でも少数で、いまひとつ世間に機電技術職の認識が乏しいこと、そして機電技術職の人材の確保、技術の伝承といった課題への取り組みとして当部会では、「機電技術者意見交換会」を平成 9 年から実施し、今回で 17 回目になる。業界の課題をテーマとして取り上げ、対象とする参加者を募り、一泊二日の合宿型式でグループ討議や発表を通して機電技術者相互の意見交換によって、切磋琢磨と会社を超えた交流を実施している。

以下、17 年目となる機電技術者意見交換会の概要と参加者の感想をまとめたダイジェストを報告する。
※詳細報告書は、協会のホームページ (http://www.jcmanet.or.jp/jcma/?page_id=117) に、過去第 1 回から第 17 回までの機電技術者意見交換会報告書として掲載されているので確認いただきたい。

2. 第 17 回機電技術者意見交換会

(1) 概要

- ①機電技術者意見交換会参加者の選出基準
機電技術者 30 歳以上～ 40 歳程度
(協会会員会社のグループ会社で現場施工業務が主体の社員も含む)
- ②開催日時：平成 25 年 10 月 17 日 (木)～ 18 日 (金)
- ③場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター
- ④テ ー マ：あなたは機電技術者として今、何を頑張

りますか
～ 10 年後の夢を語ろう～

⑤講演会

演 題：『海に浮かぶ巨大都市構想～水没の危機に瀕した国々を救え！壮大な“環境アイランド”計画～エネルギーも食料も自給・自活』
講 師：清水建設 環境・技術ソリューション本部 竹内真幸様

⑥スケジュール

- 1 日目
- 10：30～11：00 参加者受付
 - 11：00～11：30 オリエンテーション
 - 12：30～14：30 自己紹介（自己アピールシート PPT による）
 - 14：50～17：00 グループ別討議（班構成 Ver.1）
 - 18：30～ 全体懇親会→グループ別懇親会
- 2 日目
- 8：30～10：00 グループ討議（班構成 Ver.2）
Ver.1 の班をシャッフル
 - 10：00～12：00 グループ討議 Ver.1 & 討議成果のまとめ
 - 13：00～14：00 講演会
 - 14：15～16：50 討議成果発表会 & 講評
 - 16：50～17：00 閉会

(2) 参加者

参加者は、ゼネコン、海洋系、道路、会員会社のグループ会社から 21 社 23 名でその内訳は表 1 のとおり。
グループ討議および発表の班編成の内訳（表 2）。

表 1 参加者内訳

会社系	職種	人	備考
ゼネコン	建築系	4	
ゼネコン	土木系	6	
ゼネコン	海洋系	2	
道路系		7	
会員のグループ会社		4	海洋系 1、ゼネコン系 3
合 計		23	

表一 2 班編成 Ver.1

班編成	人	平均年齢 (歳)
1 班 建築系	5	39.8
2 班 道路系	7	33.3
3 班 ゼネコン土木系+海洋系	5	31.8
4 班 ゼネコン土木系+海洋系	6	33.7

二日目の最初のグループ討議は、Ver.1の班編成をシャッフルして機電の中でも扱う分野を越えた班編成Ver.2とした。内訳は表一3のとおり。

表一 3 班編成 Ver.2

シャッフル後の班	人	平均年齢 (歳)
1' 班	5	33.2
2' 班	6	33.8
3' 班	6	33.5
4' 班	6	37.2

(3) グループ討議と成果発表

あなたは機電技術者として今何を頑張りますか～10年後の夢を語ろう～という討議テーマに対して班毎の討議4時間、またシャッフルした班編成のメンバーと視点を変えて1時間半、お互いの抱えている悩みや問題点を含めおもしろい解決策を討議した。各社の機電職が抱えている悩みは、おおよそ似通った傾向にあり、各班の報告書では、“建設業界、機電イメージ

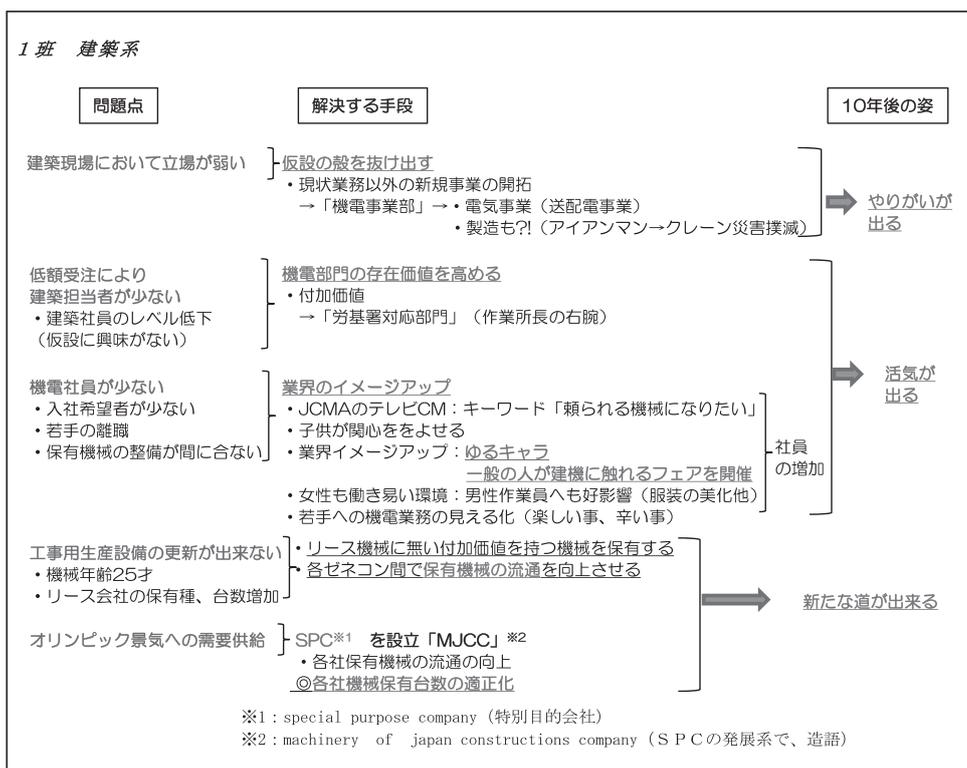
の向上”や“自らの存在価値を高める技量の向上”，“プライドを継承する人材育成”，“所長を目指す”というキーワードが並んでいる。詳細は、班毎の報告書を図一1～4に示すので参考にして頂きたい。

最後の成果発表の時間では、各班の代表が討議の内容を解説し、成果を発表した。更に今回は、グループ討議の参加メンバー全員の発言を促すため、一人ひとりに討議テーマや意見交換会に参加した感想を3分程度で発表する時間を設け、個人としての考えを発表してもらった。

(4) 総評抜粋 (参観した先輩管理職の感想)

自社機電社員の討議状況、発表を参観した上司である管理職の皆さんから全体を通した総評をもらっているのでその抜粋を以下に示す。

- ・建設業界を魅力的なものとするには、革新を起こし活気にあふれる産業とすることが必須であり、参加者自身が革新に挑戦することが重要である。
- ・この会に参加したことが有意義なものとなるために感じたことを10年後の自分へ送るメッセージのつもりで整理しておくこと。
- ・子供のころに見たアニメやロボットなどが実現してきた、夢を持った創意工夫を心掛けることで現実を変化させていくことが大切である。
- ・自分を売り込み、人に理解してもらおうプレゼンの能力をこの機会に向上させてもらいたい。



図一 1 成果発表①

2班 道路系

〈議 事〉 テーマ(あなたは機電技術者として今何を頑張りますか～10年後の夢を語ろう～)
 機電技術者として10年後の自分がなりたいもの・なるべきもの

- ・現場のエキスパート
- ・現場所長
- ・工場長

そこに至るまでに必要なスキル

<ul style="list-style-type: none"> ・知識 ・技量 ・人材育成 	←	<ul style="list-style-type: none"> ・現場の場数を踏む ・他社との技術交流 ・心のケア ・人の動かし方 ・社内へのアピール能力
---	---	---

現在何をすべきか？

- ・いち工事職員として現場をこなす(マネジメント)[知識・技量]
- ・可能な範囲での現場視察[知識・技量]
- ・関連書物にて知識を深める[知識・技量]
- ・愛情いたわりをもって接する[人材育成]
- ・人間性を見抜けるよう努める[人材育成]
- ・社内報などで機電職員の貢献度を発信する[知識・技量・人材育成]

以上のことを自分たちは行なう必要がある。
 知識・技量は、個人によるものが大きい、人材育成に関しては、成長してもらう人材が必要である。
 しかし、業界全体を見ても就職希望者が少なくまた、離職率も高いのが現状である。
 それは、機電職員に関しても同じことが言える。
 そこで、人材育成を行うに当たり、必須条件のようなものを討議した。

- ・**人材確保**
 - ・業界のイメージアップ(CM・ゆるキャラ)
世間の認知度を高める
 - ・イベント開催(重機の展示など)
子供や若い世代に興味を持ってもらう
 - ・インターンシップ
学生に仕事内容を理解してもらい就職してからのイメージのズレを減らす
- ・**環境改善**
 - ・事務所と宿舍の分離
仕事とプライベートの切り離し
 - ・機械のオートメーション化
作業を簡略化・簡便化でき、効率化および安全に作業を行える
 - ・女性職員の採用
環境改善を行うことにより女性職員にも働ける場となり、人材確保にもつながる

これらのことを踏まえて、これからの機電技術者としての指針としていきたい。

以上をもちまして、第17回機電技術者意見交換会の報告書とさせていただきます。

図一2 成果発表②

3班 ゼネコン土木海洋系

〈議 事〉

1. 建設業界の現実とは？(夢の前に・・・)

- ・人がいない。入ってこない。 } ①
- ・仕事のアピールが下手
- ・一人当たりの仕事の質が、以前と比べて重い。 } ②
- ・給料と休日が少ない。
- ・仕事の達成感が大きい。 } ③

2. 建設業界の現実に対する10年後の夢

1-①に対して

- ・建設業に対するイメージの向上(イメージ向上委員会の設立?)
- ・機電職の人が、大学などで具体的な仕事内容などの説明を行う(会社の垣根を越え集団で行う)

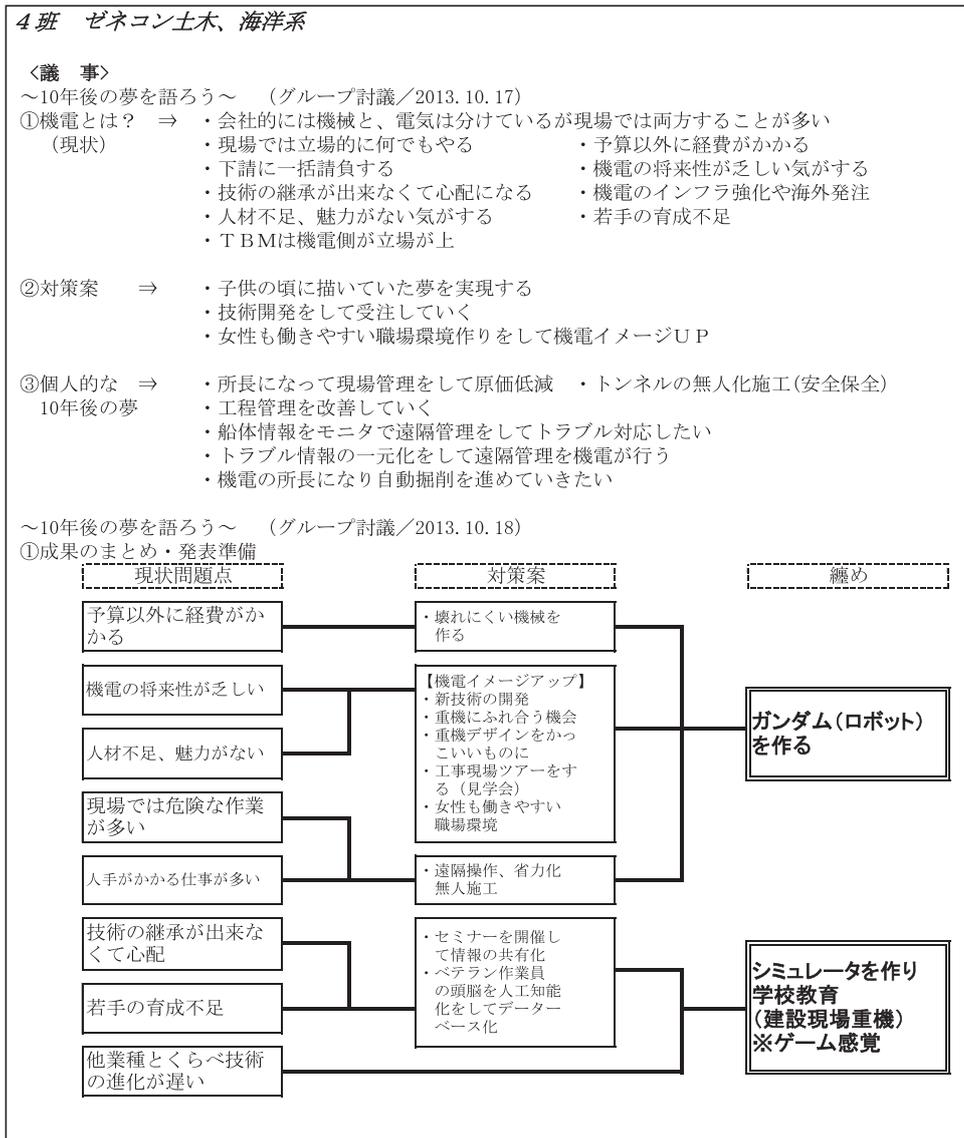
1-②に対して

- ・機電職全体の待遇の改善

1-③に対して

- ・機電職としてのプライドを次世代に継承する
- ・社会に「必要な仕事だ」と認識して貰う

図一3 成果発表③



図一4 成果発表④

(5) 参加者アンケートの整理と分析

意見交換会終了後参加者に提出してもらったアンケート結果を整理した(図一5～8)。

機電技術者意見交換会の開催意義については、参加者全員(100%)が参加して「有意義であった。」という回答であり、また社内への展開についても87%の人が意見交換会の内容を社内展開したいという回答であった。今後も継続して意見交換会を開催することが必要である。

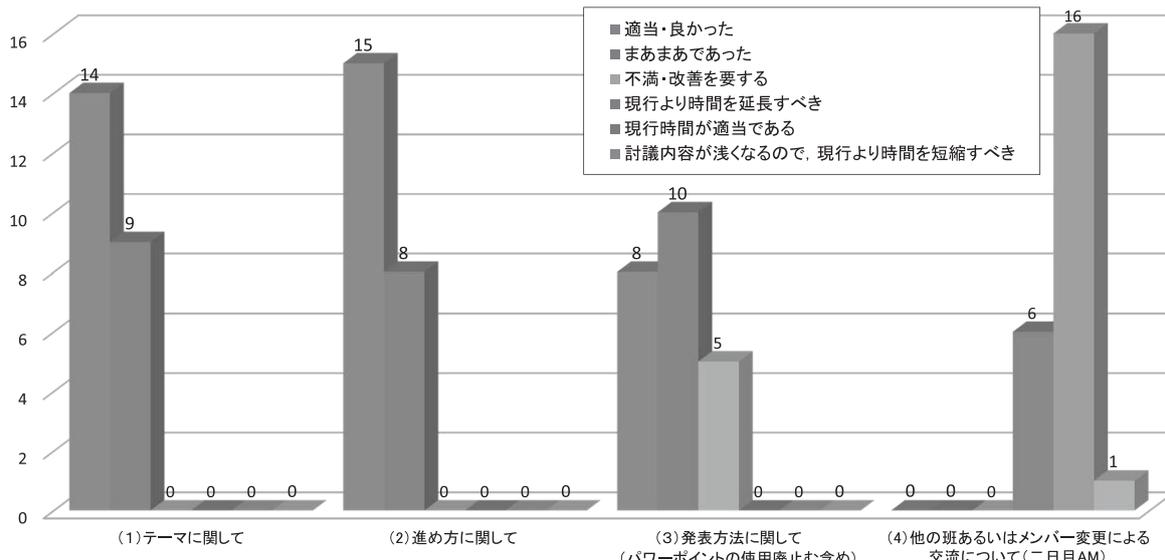
テーマや班編成については、「良かった。」という意見が多く、分野別の班編成では、「各班の編成人数も良く業務内容が同じなので積極的な意見交換ができた。」という意見があった。また2日目のシャッフルした他分野の班編成では、「違った意見交換ができ新

鮮であった。」という意見もあり、参加者からは好評であった。

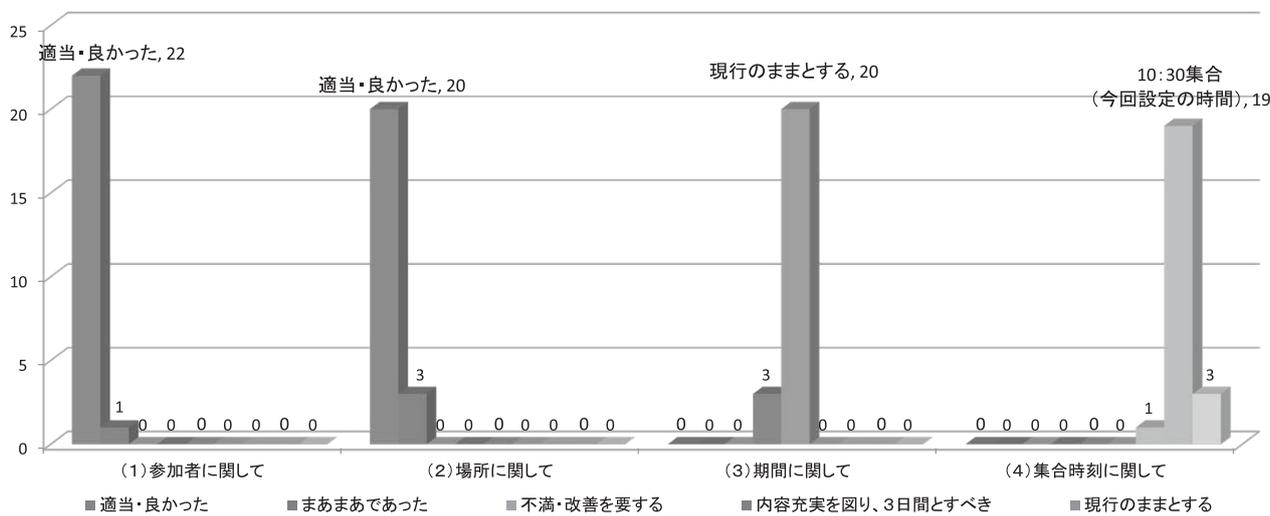
講演会については、夢があり興味を引く内容で、参加者全員から有意義であった。という回答が得られた。

全体を通して参加者から、「意見交換会が有意義であり適当・良かった。」という回答が多かった。その要因を考察すると、

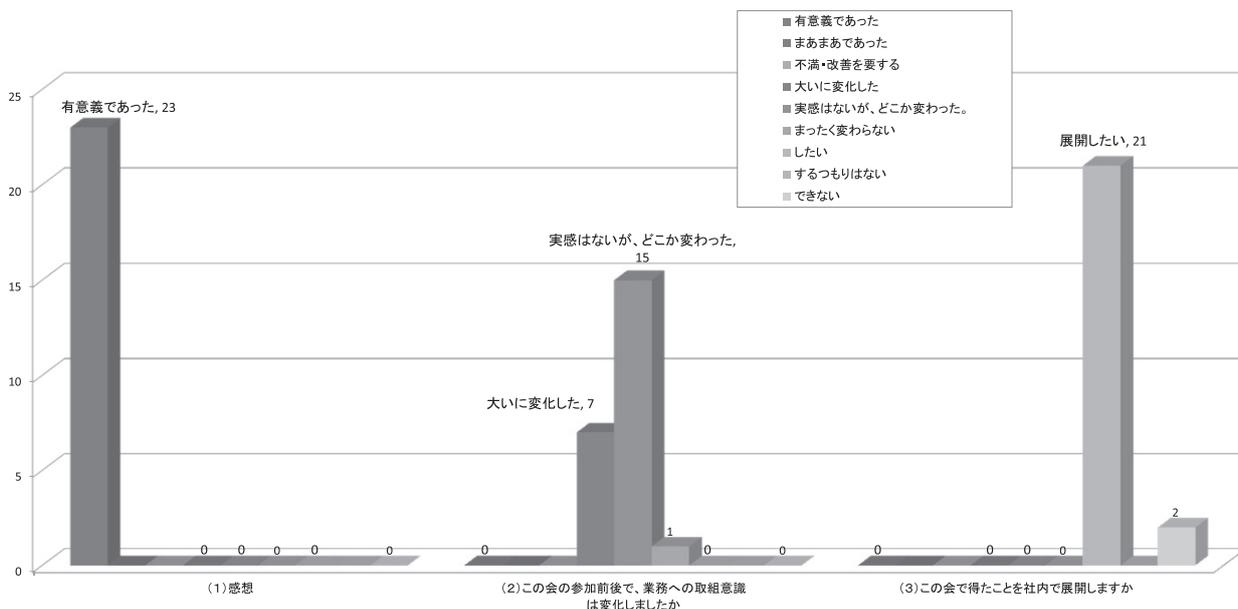
- ・参加者の対象年齢範囲を引き上げたこと
 - ・現場施工に携わるグループ会社の機電技術者にも参加を募ったこと
 - ・グループ討議の班編成にあたって、『土木(海洋)』、『道路』に加えて『建築』の班を作ることができたため工種や仕事の分野で意識が共有できた。
- ということが考えられる。



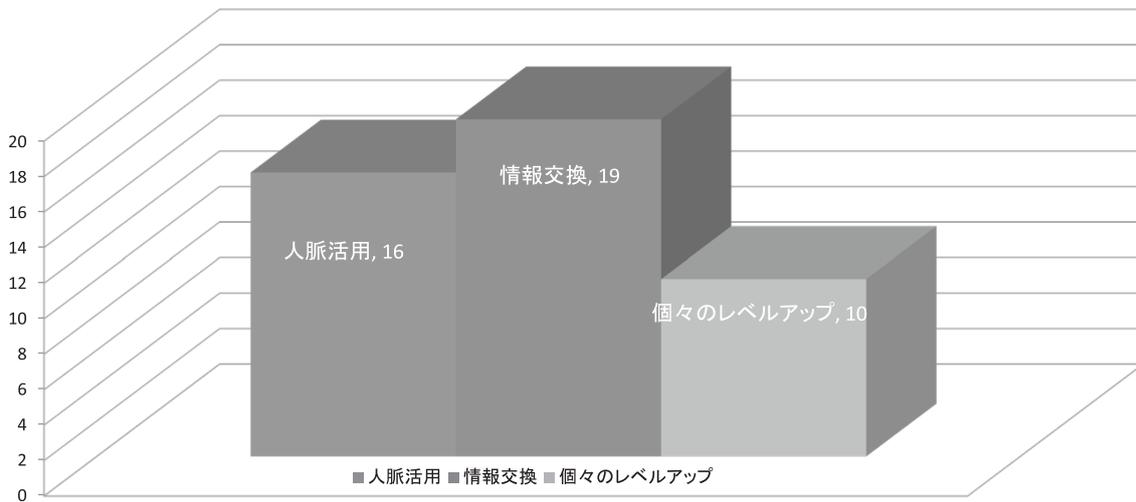
図一五 テーマ、進め方、発表方法について (択一式)



図一六 参加者、場所、開催期間について



図一七 参加した感想



図一八 今回の意見交換会から得たもの (3 択複数回答可)



写真一 発表の様子



写真一三 個人発表の様子



写真一四 ホワイトボードを使ったグループ討議



写真一五 発表会全景

3. おわりに

建設業部会の活動である機電技術者意見交換会が機電技術者の育成, 交流という『人づくり』, 『場づくり』に寄与していることが明らかであり, 今後も活動を継続していく方針である。第 18 回となる 2014 年度の機

電技術者意見交換会は, 10 月 2 日～3 日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催する予定であり, 討議テーマやスケジュールについて機電技術者交流企画 WG で現在検討中である。

JCMA

(文責: 機電技術者交流企画 WG)